

年 組 番
(名前)

<新聞記事から考えよう>190328
～主権者として考えてみよう～



さが2019 統一地方選

有権者「論戦聞きたい」

◎記事から読み取ろう

4年前は、議席を3人で争った神埼市・郡選挙区は無投票の公算が大きい。選挙戦になることで候補者の意見をしっかりと聞いて選ぶことができるのに…。神埼市の自業田中伸一郎さん(40)は、投票先を見極める機会として選挙を重視。論戦がないまま地域の代表が決まってしまうことを残念がる。

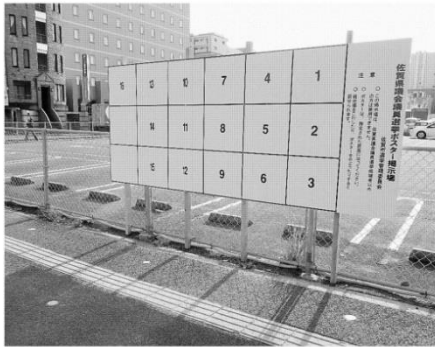
さが2019
統一地方選

県議選 無投票増か

29日に告示される佐賀県議選では、前回の6選挙区を上回る7選挙区で無投票になる可能性がある。統一地方選では全国的に無投票並選が増えるとみられ、地方議員のなり手不足は深刻になっている。12月の県知事選では過去最低の投票率35・26%を記録し、県議選も低投票率が懸念される。地方議会の存在意義が問われない事態を有権者は憂えている。

◎いろいろな人の意見をまとめよう。
田中伸一郎さん

なり手不足、低投票率も懸念



山田真瑚さん(18)は選挙戦にならないことで、自身をほじめ、投票できない可能性が大きい10代が多いこと

□1面参照

山田真瑚さん

長尾瑞穂さん

29日に告示される佐賀県議選のポスター掲示板一佐賀市

に驚く。「投票に行かないと、若い人の意見は伝わらない」。選挙が実施される選挙区に同世代に、投票の機会を大切にしように訴える。

県議の活動に厳しい目を向ける有権者もいる。仕事の都合で、昨年の知事選で投票しなかった佐賀市の自営業長尾瑞穂さん(42)は、県議選への関心も薄いと見られる。地域の身近な課題に取り組み市議と異なり、県議の活動は見えにくいと感じる。

元保育士の中島麻美さん(33)は、子育て環境の充実には、子育て環境の充実には理解があると感じる人に「投票を託してきたが、地元選挙区は前回無投票で、思いを生かせなかった。今回は8年ぶりに選挙戦になる見込みで、地域の将来をどう描くのか分りやすく伝えてほしい」と願っている。候補者の思いが伝われば、投票への意欲も高まると思

宮崎勝 青木宏文

市議選や公職など唐津市政をウオッチし、県議選も欠かさず投票している木村真一郎さん(67)は、知事選の低投票率を引き合いに「投票のシステムが機能していない」と選挙制度の問題点を指摘する。県議選で無投票になる見通しの選挙区は多量あり、制度改革の必要性を感じ「選挙区を越えた『越境投票』や、全県一区でもいいのでは」とアイデアを示す。

木村真一郎さん

(佐賀新聞 2019.3.28 付)

中島麻美さん

◎広げよう・深めよう

◎5人の意見から、統一地方選や選挙に対する自分の考えをまとめてみよう。

◎自分の考えをまとめよう

・自分の住んでいる地域について、どんな要望・希望・期待がありますか。どんなことを実現してほしいですか。